

事務連絡

平成27年12月28日

各都道府県知事衛生主管部（局）
がん対策担当課 御中

厚生労働省健康局
がん・疾病対策課

「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」の改正等について

がん対策の推進につきましては、平素から格段のご配慮を賜り、厚く御礼申し上げます。

厚生労働省では、本年9月にとりまとめた「がん検診のあり方に関する検討会中間報告書」を踏まえ、「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」（以下「指針」という。）を改正し、平成28年度から適用する予定です。

指針の改正にあたっては、日本消化器がん検診学会による「対策型検診のための胃内視鏡検診マニュアル」（以下「胃内視鏡検診マニュアル」という。）の策定、「今後の我が国におけるがん検診事業評価の在り方について」（がん検診事業の評価に関する委員会報告書（平成20年3月）の別添7「各種がん検診のための事業評価のためのチェックリスト（市町村用、都道府県用及び検診実施機関用）」（以下「事業評価チェックリスト」という。）及び別添8「仕様書に明記すべき必要最低限の精度管理項目」（以下「仕様書に明記すべき精度管理項目」という。）の改正等が併せて必要となることから、改正後の指針の発出は来年1月末頃を予定しております。

なお、事業評価チェックリスト及び仕様書に明記すべき精度管理項目については、従来、がん検診事業の評価に関する委員会がお示ししていましたが、今後は国立がん研究センターから示させていただきます。

このため、市町村において、平成28年度からの改正後の指針に基づくがん検診の実施に向けた準備の参考としていただくよう、指針、事業評価チェックリスト及び仕様書に明記すべき精度管理項目において改正を予定している主な内容並びに胃内視鏡検診マニュアルに記載される予定の主な内容を別紙に示しますので、貴管内市町村及び関係団体に対して周知するとともに、適切に対応いただきますようお願いいたします。

1. 指針において改正を予定している主な内容

(1) 胃がん検診

ア 検診項目については、問診に加え、胃部エックス線検査又は胃内視鏡検査のいずれかとする。問診、胃部エックス線検査及び胃内視鏡検査を併せて実施しても差し支えないが、この場合、受診者は、胃部エックス線検査又は胃内視鏡検査のいずれかを選択することとする。

イ 対象者については、当該市町村の区域内に居住地を有する50歳以上の者とするが、当分の間、胃部エックス線検査については、40歳以上の者を対象としても差し支えない。

ウ 検診間隔については、原則として同一人について2年に1回とする。ただし、当分の間、胃部エックス線検査については、年1回実施しても差し支えない。

エ 胃内視鏡検査を行う場合の実施体制については、胃内視鏡検診マニュアルを参考に行うこと。

(2) 乳がん検診

ア 検診項目については、問診及び乳房エックス線検査（マンモグラフィをいう）とする。

イ 視触診は推奨しないが、仮に実施する場合は、乳房エックス線検査と併せて実施すること。

2. 胃内視鏡検診マニュアルに記載を予定している主な内容

(1) 検査医等

ア 検査医については、以下のいずれかの条件を満たす医師であることが望ましい。

① 日本消化器がん検診学会認定医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器病学会専門医のいずれかの資格を有する医師

② 診療・検診にかかわらず概ね年間100件以上の胃内視鏡検査を実施している医師

③ 地域の「胃内視鏡検診運営委員会（仮称）」（注）が、①又は②の条件を満たす医師と同等の経験、技量を有すると認定した医師

イ 撮影枚数については、対象者1人につき、1回あたり30コマから40コマを基本とする。

(2) 読影体制

ア 読影体制については、各市町村が読影委員会を設置し、読影委員会が、全症例の全内視鏡画像のダブルチェックを行うことを必須とする。ダブルチェックとは、胃内視鏡検診を実施した医師による読影に加えて、読影委員会の医師が胃内視鏡検診の画像をチェックすることをいう。

イ ダブルチェックを行う読影委員会の医師については、以下のいずれかの条

件を満たす医師であること。

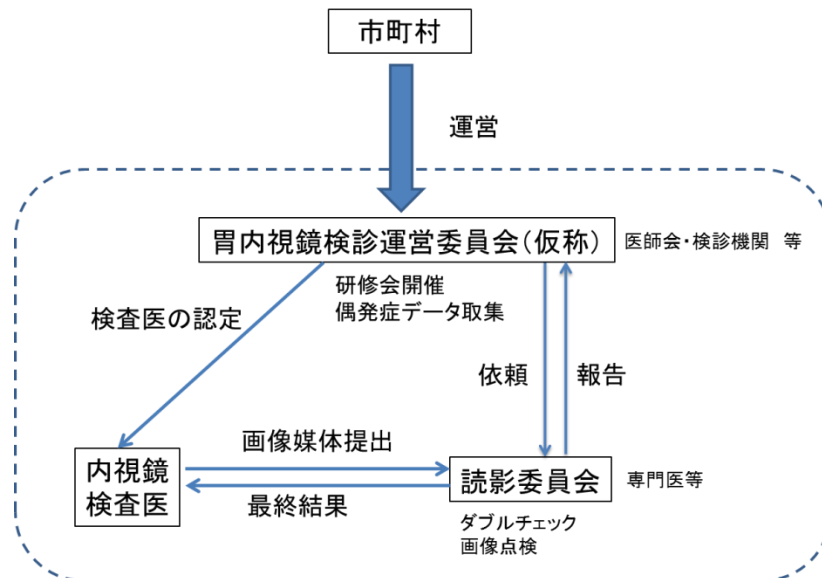
- ① 原則、日本消化器内視鏡学会専門医の資格を持った医師
- ② 「胃内視鏡検診運営委員会（仮称）」がダブルチェックを行うに足る技量があると認定した医師

（注）胃内視鏡検診運営委員会（仮称）及び読影委員会について

胃内視鏡検診を導入する市町村では、「胃内視鏡検診運営委員会（仮称）」を設立することが望ましい。

「胃内視鏡検診運営委員会（仮称）」は、胃内視鏡検診を実施する市町村が運営主体となり、地域の医師会及び検診実施機関の関係者等で構成される委員会を指す。主な役割として、（１）ア③に定める医師の認定、（２）イ②に定める医師の認定、読影委員会の管理、偶発症の把握や対策等を担う。

【胃内視鏡検診運営委員会（仮称）の役割（イメージ）】



（３）麻酔等

胃内視鏡検診を安全に行う必要があるため、咽頭麻酔や鼻腔麻酔は行うが、原則、鎮痛薬、鎮静薬は使用しない。また、鎮痙薬は、心疾患、緑内障、前立腺肥大症などの疾患がない受診者に対しては、使用しても差し支えない。

3. 事業評価チェックリストにおいて改正を予定している主な内容

(1) 乳がん検診の事業評価チェックリスト

1 (2) に伴い、視触診に係る記載を修正（検診実施機関用、市町村用、都道府県用）。

(2) 胃がん検診の事業評価チェックリスト

ア 1 (1) 及び2に伴い、検診項目及び検診対象者等に係る記載を修正（検診実施機関用、市町村用、都道府県用）。

イ 2に伴い、胃内視鏡検診に係る撮影枚数及び読影体制等に係る記載を追加（検診実施機関用）。

(3) 5つのがん検診の事業評価チェックリスト

「がん登録等の推進に関する法律」（平成25年法律第111号）の施行に伴い、がん登録に係る記載を修正（都道府県用）。

4. 仕様書に明記すべき精度管理項目において改正を予定している主な内容

(1) 乳がん検診

1 (2) に伴い、視触診に係る記載を修正。

(2) 胃がん検診

ア 「1. 検査の精度管理」において、1 (1) 及び2に伴い、検診項目に係る記載を修正するとともに、胃内視鏡検診における撮影枚数及び読影体制等に係る記載を追加。

イ 「2. システムとしての精度管理」において、胃部エックス線検査、胃内視鏡検査それぞれについて、診断のための検討会や委員会を設置することを追加。